

職場における健康管理

村田 勝 敬

■ プロローグ

50人以上の事業場には選任産業医がいることになっている。しかし、職場で実質的な健康管理にまで携わっている産業医は(専任産業医でない限り)少ないのではないだろうか。私の若い頃をふり返ってみても、産業医は職場の中でいわば浮いた存在であり、職場にいて傷病が発生すれば労働者と面談することはあっても、労働者全体を見渡して作業場の問題点を見つけることにまで至っていなかった。労働衛生指導医を拝命後10年以上を経て、職場における健康管理の一佳境に漸く入ったように思う。それは将に「産業医研修に疫学の講義が含まれる」を再確認させるものであった。

■ 職場の健康診断

事業者は従業員の健康診断(健診)を毎年実施することが義務づけられている。その結果は「定期健康診断結果報告書」として労働基準監督署(労基署)に提出される。それを各都道府県の労働局が取りまとめ、厚生労働省労働基準局に集められ、全国の健康診断結果として公表される。では、全国と自分の県の有所見率を見てみよう。2013年の秋田県データでは、血圧(23.7%)、肝機能検査(23.1%)、血中脂質検査(43.7%)、血糖検査(16.9%)、心電図検査(16.3%)の有所見率が全国と比べて5%以上も高かった。これら

の差の大半は地域固有の食生活に由来すると想像されているが、他方、健診機関の間で異常値の判定基準が大きく違うことも影響する(秋田では後者を指摘する産業医が多い)。尤も、労基署への提出前に産業医が個人票を確認していないことも一因である。

■ 有所見率の差?

次に、事業場の定期健診項目毎に実施者数と有所見者数から有所見率を算出し、その数値を全国および県の有所見率と比較してみよう。少なくとも、事業場の有所見率が県内の健診結果と5%以上乖離する検査項目については何等かの原因究明をしないとはならない。最初に考えるべきは業務上の有害環境因子の存在である。

聴力検査には1000 Hzと4000 Hzがあり、事業場内のこれら有所見率は重要な作業環境管理に関する情報を提供する。すなわち、4000 Hzの有所見率から1000 Hzの有所見率を引いた差は騒音性難聴の発生を示唆する。特に、この差が事業場内の他部署より著しく大きい場合は、(仮に室内騒音レベルが85dB以下であっても)騒音抑制や耳栓着用などを考慮する必要があるかもしれぬ。一方で、部署内の従業員の中に老人性難聴の高齢者、パチンコ好きな人、自動車内やヘッドフォンで音楽を大音量で聴いている人がいないかどうかも尋ねておいた方がよい。



日本産業衛生学会東北地方会(盛岡, 2013)

また、一部の有機溶剤（四塩化炭素、クロロホルムなど）や有機フッ素化合物などは肝障害を起こし得る。これらが否定されると、消去法により残された原因～食事に関わる生活習慣～を考える。

■ 疫学と健康管理

オランダの研究で、高頻度の間食が肝脂肪症や肥満を招いていることが報告されている。隣の韓国研究者は、カップ麺やパンを好んで摂食する食事パターンは高コレステロール血症や腹部肥満と関連すると述べている。わが国の家計調査（総務省、2008年）によると、インスタントラーメン消費量は青森県が全国一であり、東北地方の他県もトップ12までに全て入っていた。

従来事後措置として、肝機能異常者に内科受診を勧めると、その多くが脂肪肝と言われて戻って来た。そこで、2,000名以上の同一健保組合員を対象として食行動に関する質問紙調査を行い、それを定期健診データと連結して解析した。その結果、昼食時カップ麺摂食者に高ALT（ ≥ 30 IU/l）者が多く、かつ高中性脂肪血症（ ≥ 150 mg/dl）と低HDLコレステロール血症（ < 40 mg/dl）も高率であった。すなわち、カップ麺の非摂食者と比較すると、習慣性カップ麺摂食者の発症リスクは各々1.38, 1.58, 2.04倍であり、統計学的に有意であった。

2014年に労働衛生指導へ出かけた某製造工場の場合、肝機能と血中脂質検査の有所見率は34.5%と60.2%であった。そこで職場内を見廻ると、何と、カップ麺自動販売機が食堂に設置されているではないか…！秋田では、社員食堂がなく、交替制勤務者のいる事業場で肝・脂質検査の有所見率が高いように思われる。

■ エピローグ

健康管理の一環として、産業医は事業場健診の有所見率を比較検討することを忘れないで欲しい。大規模

事業場で部署別にこれらの率を算出するならば、更にきめ細やかな健康管理に加え、作業環境管理も実施できる。その上、産業医が個々の労働者の健診結果を丁寧に見れば、予防に直結した“事後措置”も可能となる。この時、注意を要するのは飲酒習慣である。慢性飲酒により肝機能障害、高脂血症、高血圧が発症し得るが、多飲者では γ -GTP、AST、中性脂肪の高値があっても、高LDLコレステロール血症や低HDLコレステロール血症、ALT高値の発生頻度は概して低い。カップ麺摂食由来の脂肪肝との微妙な差違を検査値だけで鑑別できれば「いとおかし」と『枕草子』の世界に嵌まってしまいかも…。

「みちのく」No. 52 (2014年12月刊)

